

## 2016年第2回KCスキー合宿「ドロミテ スーパースキー」

■日 程：2016年2月13日(土)～21日(日)

■メンバー：阪田正博、阿部幸雄、倉橋政則(L)、齋藤寿俊(ゲスト)、青景平昌(記録)、  
山下哲人、岸美喜夫、岸月実(年齢順)

### ■計画：

KC スキー合宿は、倉橋さんをリーダーとして20年ほど前から毎年開催している伝統ある由緒正しい合宿である。2016年の計画は、3回に分けて実施し、その内の第2回目は初めての海外合宿とし、イタリアのドロミテ山塊の科尔チナ・ダンペッツォに滞在して「ドロミテ スーパースキー」エリアで2月13日から約1週間実施することにした。計画立案を担当された阿部さんは、事前調査として昨年10月に秋のドロミテを踏査し情報を収集され、11月末に最終計画をまとめ参加者を募った。参加者は上記メンバーの他に田賀雅文さんがおられたが、出発直前に都合が悪くなり辞退された。今年の1月11日から2週間の予定で実施した第1回目のKC合宿では、北アルプスの降雪量が記録的に少なく、滑走可能なゲレンデ探しに苦労した。実はこれは世界的な傾向で、日本のみならずヨーロッパアルプスでも雪不足の情報があり心配されたが、ドロミテ スーパースキーのエリアは元々アルプスの南面にあるが故に人口降雪機が整備されており、2月に入ってから幾度かの降雪で雪不足は解消されていた。現地では天候に恵まれ、計画していた6日間のスキーを楽しむことができた。なお、齋藤寿俊さんは田賀さんの元勤務先での知人であり、KC合宿にも参加されてきた方である。今回の参加者は、年齢が67歳から80歳、平均72歳のメンバーで構成されており、長年KCスキー合宿に参加された常連であり、その成果の発揮が期待された。



### ■行動時間：

#### ◇ 2月12日(金) 晴

自宅から直接空港に入る川崎市在住の齋藤さん以外は、集合場所の成田ビューホテルに前泊する。18時を目途にチェックインして夕食を一緒にする。山下さんは20時前に到着。

#### ◇ 2月13日(土)

成田ビューホテル 7:00⇒7:20 成田空港第一ターミナル(全員集合し手続き) 10:50⇒  
ルフトハンザドイツ航空(LH711便)⇒15:10(以下現地時間:時差8時間)フランクフルト  
空港 17:10⇒ルフトハンザドイツ航空(LH330便)⇒18:00 ベニス・マルコポーロ空港 19:35  
⇒専用バス⇒21:30 ホテルトリエステ(科尔チナ・ダンペッツォ)⇒夕食

◇ 2月14日(日) 曇り、小雪(滑走エリア:ファローリア&クリスタッロ)

ホテル 9:35⇒9:40 循環バス⇒ファローリア (FALORIA) ゴンドラ駅 10:04⇒ゴンドラ 51 番⇒  
ファローリアのエリアでリフト 54 番に 2 回乗って滑走⇒リフト 55 番で RIO GERE(1680m)に  
下りて道路を横断⇒リフト 57 番でクリスタッロのエリアに移動⇒12:00 ロッジ(SON FORCA)  
で昼食 12:44⇒コース 71 番を滑走⇒リフト 59 番⇒コース 73 番滑走⇒13:20 スキーを脱い  
で道路横断⇒リフト 55 番⇒リフト 56 番⇒リフト 54 番⇒コース 62 番(山下、青景)と 61 番に  
分かれて滑走⇒リフト 54 番(山下、青景)⇒コース 61 番⇒14:07 ファローリアのゴンドラ乗場  
で休憩 14:36⇒ゴンドラで街に戻る 14:50⇒15:30 ホテル⇒16:30 タウンウォッチング⇒18:  
05 ホテル 夜は雪



図-1 ファローリア(FALORIA) &クリスタッロ(CRISTALLO)

◇ 2月15日(月) 曇り後晴れ 夜に雪 (滑走エリア:トファーナ)

ホテル 9:10⇒循環バス⇒トファーナのゴンドラ駅(1217m)9:30⇒ゴンドラ 25 番⇒  
9:37 Col Drusce(1770m)9:54⇒コース 40 番滑走⇒リフト 24 番⇒10:19 Col Drusce⇒  
10:21 コース 42 番 滑走⇒リフト 21 番⇒リフト 22 番⇒10:39Pomedes(2303m)⇒コース 35 番  
(山下、青景)と 31 番に分かれて滑走⇒リフト 19 番⇒コース 43 番滑走⇒リフト 24 番⇒ Col  
Drusceにて昼食 13:19⇒ゴンドラ 26 番で RA VALLES(2470m)13:26⇒コース 48 番滑走⇒  
リフト 28 番⇒ゴンドラ 26 番で Col Drusce14:05⇒14:18 ゴンドラ 25 番で街に降りる  
14:27⇒14:45 ホテル⇒19:30 山小屋レストラン Piccoro Britte にて夕食 21:50⇒22:08 ホテ  
ル 夜半、本格的な降雪



図-2 トファーナ(TOFANA)



図-3 セラロンダ(SELLARONDA)周回コース

◇ 2月16日(火) 晴れ 夜には雪(滑走エリア:セラロンダ)

ホテル 8:10⇒移動バス(峠 PASSO FALZAREGO 2117m)8:37⇒9:13 コルバラ 1568m⇒9:21 ゴンドラ 19 番 9:23⇒9:39BOE(2000m)⇒滑走⇒9:59 リフト 07 番(PASSO CAMPOLONGO 1875m)⇒10:07 Rif. BEC DE ROCES(2160m)⇒滑走⇒リフト 08 番 10:25 ⇒10:28ARABBA(1602m)⇒ゴンドラ 01 番 10:38⇒10:47PORT COVAVESCOVA (2478m)10:49⇒滑走⇒PONT DE VAUZP(1851m)⇒リフト 126&124 番⇒ 11:42 Rif. SAS BECE(2395m) ⇒滑走⇒PIAN FRATACES(1715m)⇒ゴンドラ 155 番⇒12:13 サッソレンゴの岩峰を背景に写真撮影 12:37⇒12:45 滑走⇒13:04リフト 48 番⇒13:13 ロッジ(PIZ.SETEUR 2064m)で昼食 14:11⇒滑走⇒14:38 SELVA WOLKENSTEIN(1563m)でスキーを脱ぎ道路横断⇒リフト 31 番⇒滑走⇒14:50 カーブするゴンドラ 30&40 番 15:00⇒滑走⇒15:43 ゴンドラ 34 番⇒15:50 コルバラ 16:15⇒移動バス 16:20⇒峠(PASSO FALZAREGO 2117m)16:47 ⇒17:25 ホテル 夜には雪

◇ 2月17日(水) 雪、曇り(滑走エリア:プランデコロネス Plan De Corones)降雪で場所変更

ホテル 8:40⇒移動バス⇒10:03 OLANG(1344m)⇒10:18 ゴンドラ 301&302 番⇒10:41 プランデコロネの頂上(2275m) 10:46⇒滑走コース4番⇒11:30 RISCONE(950m)⇒ゴンドラ 100 番 ⇒11:52 ロッジ(レストラン CIMA)にて昼食 13:14⇒13:14 滑走コース6&22 番⇒14:04 ゴンドラ 301 番⇒14:03 コース 22 番滑走 14:24⇒14:29 BAR で休憩 15:26⇒移動バス⇒16:30 ホテル



図-4 プランデコロネス(Plan De Corones)

◇ 2月18日(木) 快晴(滑走エリア:ラガッツォイ⇒アルタパディア)

ホテル 8:35⇒移動バス⇒9:15 ファルツアレゴ峠(PASSO FALZAREGO 2150m)9:22⇒  
ゴンドラ⇒9:33 ラガッツォイ(LAGAZUOI 2778m) 9:54 滑走コース⇒10:27 ロッジ・スコトニイ  
(SCOTONI 1985m)で休憩 10:52⇒10:58 蒼氷の氷柱⇒11:05 ロッジ(CAPANNA ALPINA  
1726m)⇒11:14 馬ソリ乗り場⇒11:21 馬ソリで牽引されて移動 11:30⇒  
11:35 ARMENTAROLA(1615m)⇒ 11:39 Jバーリフト 12 番⇒11:48 コース 11 番滑走⇒  
11:57 CASSIANO(1537m)⇒ゴンドラ 11 ⇒ 12:09 PIZ SOREGA(2003m)⇒12:11 コース 28  
番滑走⇒12:22 昼食 ロッジ(CIAMPAI 1900m) 13:31⇒13:33 リフト8番 13:40⇒BIOCH  
2079m(斎藤さん行方不明)⇒コース7番滑走 13:50⇒LA BAITA(斎藤さん合流)⇒13:58 リフ  
ト 16 番 ⇒PRALONGIA 2157m⇒14:06 コース 9A&11 滑走⇒14:17 CASSIANO(1537m)14:  
29⇒ゴンドラ 11 番⇒14:33 PIZ SOREGA(2003m)⇒コース 23 と 24 番滑走⇒14:59 連絡リフ  
ト 57 番⇒15:03 La VILLA 1433m バス乗り場 15:30⇒移動バス⇒15:58 ファルツアレゴ峠  
(PASSO FALZAREGO 2150m)⇒16:30 ホテル



図-5 ラガッツォイ(LAGAZUOI)⇒アルタパディア(ALTA BADIA)

◇ **2月19日(金)** 晴(滑走エリア:ファローリア&クリスタッロ⇒トファーナ) 青景の記録

ホテル⇒8:35 循環バス 8:52⇒ファローリア (FALORIA) ゴンドラ駅 9:00⇒ゴンドラ 51 番⇒  
9:16 RIF.FALORIA(2123m)⇒リフト 54 番⇒TONDI(2362m)⇒コース 63&60 滑走⇒リフト  
55 番で下る 9:38⇒RIOGERE(1680m)道路横断⇒リフト 57 番 9:48⇒9:53 ロッジ(RIF. SON  
FORCA 2215m)⇒コース 71 番滑走⇒9:58 リフト 59 番⇒10:04 リフト 58 番(トンバコース 69  
番) 10:11⇒10:11 リフト 58 番の中間点⇒10:12 コース 69 番(トンバコース) 滑走⇒10:17 リフ  
ト 59 番⇒コース 73 番⇒10:26 道路横断点⇒10:32 リフト 55 番⇒10:38 リフト 56 番⇒リフト 56  
番下滑走(オブピステ)⇒10:54 リフト 56 番⇒10:58 リフト 54 番 10:04⇒コース 61 番滑走 11:07  
⇒11:16 ゴンドラ駅 RIF.FALORIA(2123m)⇒11:20 ゴンドラ中間点⇒11:31 循環バス停⇒コル  
チナ駅(1227m) 11:40⇒ゴンドラ 25 番⇒Col Druscie(1778m) 11:52⇒ゴンドラ 26 番⇒12:01  
Ra Valles(2470m)⇒12:09 リフト 30 番⇒リフト最上部 (BUS DE LOFANA) ⇒コース 46 滑走⇒  
リフト 29 番⇒12:16 ACCIATORI(2612m)⇒コース 47 番滑走⇒コース 49番滑走⇒PIAN RA  
VALLES 2216m⇒リフト 28 番⇒コース 49 番⇒12:44 コース 51 番への分岐点⇒コース51番  
滑走⇒コース 43 番滑走⇒リフト 24 番⇒13:04 Col Druscie(1778m)⇒13:05 コース 41(猪谷ル  
ート)滑走⇒リフト 24 番⇒ Col Druscie(1778m) ⇒13:17 コース 42 番滑走⇒RIF.PIE  
TOFANA(1665m)⇒リフト 21 番⇒RIF.DUCA D' AOSTA(2098m)⇒リフト 22 番⇒13:39 岩間  
のトップ(RIF.POMEDES 2303m)⇒コース 31 番(初級) 滑走⇒RIF.DUCA D' AOSTA(2098m)  
⇒リフト 22 番⇒13:39 RIF.POMEDES ( 2003m) ⇒13:41 コース 35(上級) 滑走⇒  
RIF.DUCA D' AOSTA(2098m)⇒コース 43 番滑走⇒リフト 24 番⇒Col Druscie (1778m) 14:12  
⇒ゴンドラ 25 番⇒14:28 コルチナ駅(1227m) ⇒14:30 循環バス⇒14:44 ホテル⇒買い物⇒  
19:43 夕食

◇ **2月20日(土)** 晴 帰国(ベニス・マルコポーロ空港⇒フランクフルト空港)

ホテル 5:00⇒移動バス 5:30⇒7:30 ベニス・マルコポーロ空港駐車場⇒7:50 空港ロービー  
13:02 ⇒ルフトハンザドイツ航空 LH327 便 13:25⇒14:50 フランクフルト空港 17:55⇒ルフト  
ハンザドイツ航空 LH716 便⇒羽田空港

◇ **2月21日(日)** 晴 帰国(フランクフルト空港⇒羽田空港)

フランクフルト空港(日本時間 21 日 1:55)⇒ルフトハンザドイツ航空 LH716 便⇒  
13:25 羽田空港着

## ■行動報告

出国前日、齋藤さん以外の全員が成田ビューホテルに三々五々集合した。齋藤さんは自宅から直接空港に入ることになっている。18時半、ホテル内レストランに集合して、明日からのイタリア・ドロミテツアーの打ち合わせに中華料理の夕食を共にする。食事中に山本正隆さんから私の携帯に電話が入った。操作中の間違い電話であったそうだったが、ドロミテに行く話をすることができた。氏もかつてドロミテには行かれたそうだ。お元気な声に、その後3月25日に逝去されるとは夢にだに思わないことでした。最後に到着した山下さんは20時頃にチェックインした。

### ◆ 2月13日(土) 晴

チェックアウトして6時50分にロビーに集合し7時のバスで成田空港に向けて出発した。集合時間8時までに第一ターミナルで齋藤さんと合流する。宅急便で送ったスキーセットケースとスーツケースを受ける。山下はスキー板を現地でレンタルすることにして身軽な旅装であった。旅行会社のフェロートラベルから航空券控え(Eチケット)等を受け取って、Dカウンターのルフトハンザ航空のカウンターでチェックインして荷物を預けて搭乗券を受け取った。朝食後、千葉銀行で5万円をユーロに両替した。10時20分頃に37番ゲートから搭乗し、10時50分に離陸した。機は北上し佐渡ヶ島付近から日本海に入り、北海道の西側を通過してシベリヤ大陸に入った。機はシベリヤ大陸の北側を通過し、ヨーロッパにはロシアから南西方向のフランクフルトに向かって飛んでいた。緑の森、川、川に沿った高速道路が眼下に広がって着陸が近いことを実感した。フランクフルトには現地時間(時差:8時間)で15時10分に到着した。ここで、入国審査、手荷物検査を受けて、ベニス・マルコポーロ空港行きの飛行機に乗り継いだ。搭乗ゲートは13Aに変更になっていた。予定より30分遅れで、17時10分に出発した。ここから、オーストラリアとイタリアの国境に広がるアルプスを越えることになる。夕刻の光のなかに雪を被った蒼いアルプスの山脈が下眼に広がっていた。そのなかに目的地のドロミテ山塊があったはずである。約1時間のフライトで18時にベニス・マルコポーロ空港に到着した。ここでフェロートラベルの担当者に迎えられた。スキーセットケースとスーツケースは別々の場所で受け取った。ここで、スイス航空で到着予定のもう一つの日本からグループと合流してコルチナ・ダンペッツォへ専用バスで向かうために、その到着を待った。しかし、相当遅れそうなので我々のグループだけで出発することになった。19時35分に出発し、夜の高速道路を約2時間走り、21時35分に寝静まったホテルトリエステについた。スキーセットケースを1階のスキー置き場に収納して、すぐにレストランでスープとサラダとパンの夕食を摂った。食後、明日から使用するドロミテスキーパスの購入代金を案内担当者に支払う。65歳以上のシニアパスが6日間で248ユーロであった。このパスで、ドロミテスーパースキーエリア内の12か所のリゾート(1200kmのスロープ)の全てのスキー施設とコルチナ・ダンペッツォの循環バスを自由に使うことができる。また、このパスで利用者の施設利用箇所や利用時刻の履歴が記録保存され、スキーレベルを評価してくれる優れものである。



図-6 スキーパス

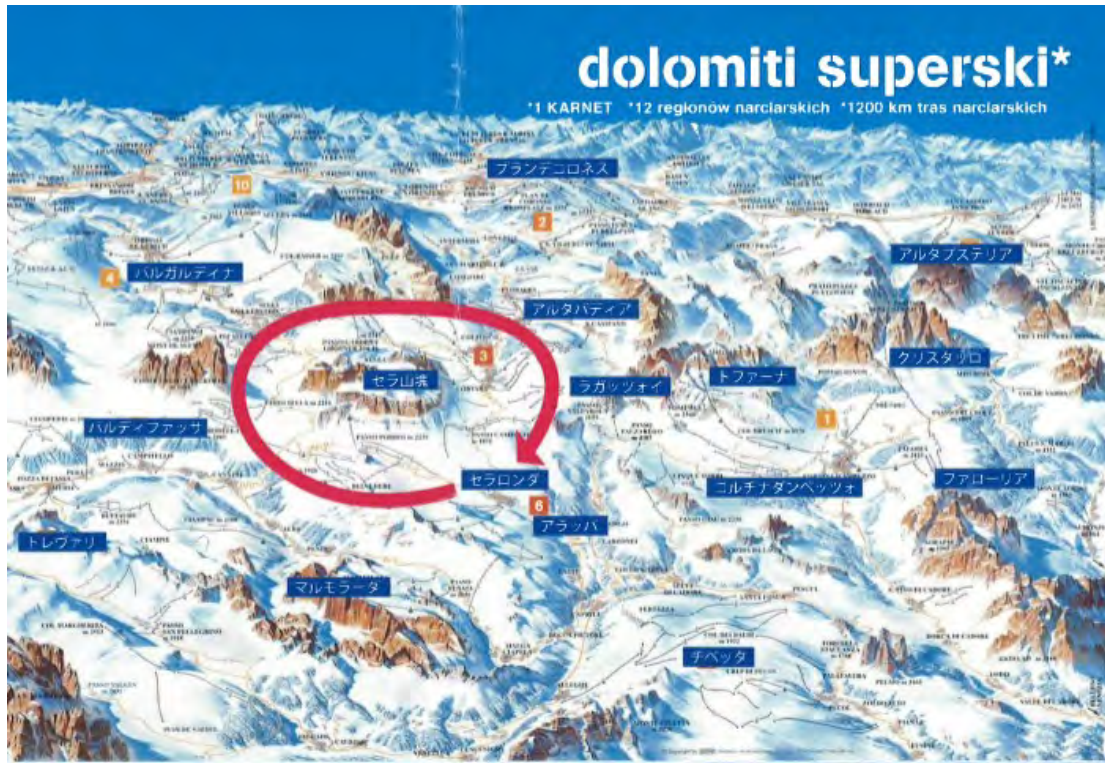


図-6 ドロミテ スーパースキー内のスキーエリア



写真 1-1 ホテル トリエステ

◆ 2月14日(日) 曇り、小雪(滑走エリア:ファローリア&クリスタッロ)

待望のスキーツアーの初日である。本日は街(1224m)の東側の岩壁の上にある台地のファローリア(2123m)と北側のクリスタッロ(3221m)の山腹にあるスキー場に行く予定である。8 時前に一階の食堂に行き朝食バイキングをとる。9 時半にホテル前に集合する。私たちのグループのガイドは深谷仁彦さんという背の高い好青年である。家族を妙高においてカナダで活動し今回は応援

に来ている由。ホテルから少し離れた所にあるバス停で小さな循環バスに乗る。バスは混んでいたが無理やり乗り込んだ。次のバス停が町の西側にある滑走エリア・トファーナの Gondola 乗り場で、ほとんど乗客がそこで降りた。我々はそのまま乗って、町の東側にあるファローリア (FALORIA) の Gondola 駅で降車する。

ファローリアのスキーエリアには、Gondola で 900m 上がるが、途中で中間駅があり乗り継ぐ。天候はあいにくの雪で、視界も悪かったが、滑走コンディションは良好であった。Gondola 駅ロッジから少し下ってから、4 人乗りリフト 54 番で登り、コース 61 番が初滑となりました。これを 2 回繰り返してクリスタッロに移動した。この初滑走でもう一つのグループのメンバーが転倒して手に怪我したとの情報があった。要注意である。クリスタッロへは下りのリフト 55 番にのって車道まで下り、そこでスキーを脱いで横断する。そこから 4 人乗りのリフト 57 番で 1698m から 2215m まで 500 m 程昇った。すぐに昼食のためにロッジ (SON FORCA) にて休憩する。深谷さんから紹介されたチロルの郷土料理を食べる。その後、有名なトンバコース 69 番を横目で見ながらコース 71 番と 70 番を往復して、下の道路までのコース 73 番を滑った。トンバコースはイタリアの有名なスキー選手名の冠コースで、狭い谷筋に沿って上方に急斜面が伸



写真 1-2 ホテル近くで循環バスを待つ



写真 1-3 Gondola 駅のロッジ前で



写真 1-4 滑走前に 2 グループ一緒に撮影



写真 1-5 コース 61 番の滑走



写真 1-6 ロッジ SONFORCA



写真 1-7 コース 73 番

びていた。

道路ではスキーを脱いで再び道路を渡り、往路をたどってファローリアのスキーエリアに戻った。朝一番に滑ったコールのリフトの終点からコンドラ駅まで滑って終わりとした。山下さんと私は、急なオリンピックコースを滑ってみたいということで、皆と別れたコースを滑った。降雪でコースが荒れていたの二人を心配して後から追った深谷さんも含め、14:36 に全員がゴンドラ駅に合流できたので、ゴンドラ 51 番で町に戻った。一旦ホテルに帰って休んで、16:30 からフェロートラベルの案内で町散策に出かけた。コルチナ・ダンペッツォは、1956 年の冬季オリンピックの開催地で、猪谷千春が日本人として初めて回転で銀メダルを獲得したことで有名な小さな町である。町のシンボルは聖フィリッポとヤコブの地区教会で、その周辺がショッピング街となっている。阿部さんは昨秋に訪問しているので、案内役をお願いする。夕食は、今日がバレンタインデーということで、19 時 30 分から特別のコース料理がでた。生ハムと野菜のソテー、ニョッキのパンプキンソース、大麦のスープ、七面鳥のステーキ、アスパラガスのベーコン巻とポテト、デザートであった。夜には雪が降っていた。



写真 1-8 タウンウォッチング

◆ 2月15日(月) 曇り後晴れ (滑走エリア:トファーナ)

2日目は、街(1200m)の西側のトファーナ(3244m)の麓に広がるスキー場である。朝、外に出ると昨夜の雪が家屋や車の屋根に10cm程度積もっている。8時前に朝食バイキングをとる。出発は昨日より10分早く、9時20分であった。循環バスはホテルの前で左折すると2・3分で次のゴンドラ駅(1217m)に到着する。ゴンドラ25番に乗って、小高いピークの Col Drusce(1770m)まで500m程上がる。ここには1956年の冬季オリンピックのゴールドメダリストのトニーザイラーの顕彰パネルが置かれている。また、ここには猪谷千春選手が出場した回転のコース41番のスタート点がある。



写真 2-1 Col Drusce(1770m)の前で



写真 2-2 トニーザイラーの顕彰パネル

我々は、に沿った比較的なだらかなコース40番を滑り、リフト24番で元の位置に戻る。次に、南側に向けてコース42番を滑走して、2つのリフト21番と22を乗り次いでPOMEDES(2303)に上る。ドロミテの最高峰MARMOLADA(3343m)を背景にして写真撮影をする。ここからコース35番とコース31番に分かれて滑る。コース35番は、国際大会でも使用される二つの岩峰の間の急斜面を滑る上級コースで、またコース31番はこの岩峰を北側から迂回するコースとなっている。山下さんと私がコース35を滑った。固い急斜面で途中横滑りしたが無事滑り終えた。下のロッジ(DUCA D'AOSTA 2098m)で合流してコース37番を滑り、リフト19番で上り返した。樹林帯のコース



写真 2-3 岩峰の間のコース35番を背景に



写真 2-4 POMEDESでMARMOLADAを背景



写真 2-5 Col Drusceから RA VALLES を望む



写真 2-6 RA VALLES のエリアに上がる

43 番を経由して Col Drusce(1770m)に戻って昼食をとった。

午後は、さらに上部のスキー場(RA VALLES)に向けてゴンドラ 26 に乗り、2470mまで上る。ここからコース 48 を滑った。ここは標高が高いため、積雪が 30cm 程度あり雪面の凹凸がよく見えないオフピステ状態のコンディションで、転倒者相次いだ。さらに上部に上がる予定であったが、危険なので下山することにする。ゴンドラ 26 番と 25 番を乗り継いで街に戻った。ホテルには 14 時 45 分に着いた。夕食はフェロートラベルが用意した山小屋風レストラン Piccoro Britte でとった。タクシーに分乗して山の途中の牧場内にあるレストランに行った。もう一つのグループと一緒にであった。お互い自己紹介したが、初日の滑走で手に怪我を人はスキーができない容態だそうだ。せっかくの海外スキーなのにお気の毒であった。赤ワインで乾杯し、温野菜の炒めものが前菜、ポテトのスープ、メインはポークステーキであった。夕食中に本格的な雪が降り始めた。ホテルに戻ったのは 22 時過ぎであった。



写真 2-7 牧場内のレストラン



写真 2-8 山小屋風レストランにて夕食

◆ 2月16日(火) 曇り、ガス(滑走エリア:セラロンダ周回コース)

本日は、このツアーのメインイベントとなるセラ山群を一周するセラロンダ周回コースを滑走する予定である。7時から朝食をとり、8時10分のホテル前に集合し、二つのグループと一緒に貸し切りバスに乗ってスタート地点のコルバラに向かう。途中 2117mの峠(PASSO FALZAREGO)を越えるが、降雪によって閉鎖の可能性があるルートある。昨夜の雪で閉鎖が危惧されたが、峠の



写真 3-1 BOE からの滑走前の写真撮影



写真 3-2 PONT DE VAUZP (1851m) にて

入口の規制掲示板は幸いにも「青」であった。約 1 時間でコルバラに着いた。セラロンダの周回コースには時計周りと反時計周りがあり、総延長は 60km でその内滑走距離は約 25km とされるロングコースである。我々は時計周りのコースをとった。そのコース案内は黄色で表示されていた。まずゴンドラ 19 番に乗って BOE (2000m) の小山ピークまで上って結構急なスロープを PASSO CAMPOLONGO に向けて滑走を開始した。コースは圧雪してあるということだったが、昨夜の雪は圧雪してない所もあった。曇り空で雪面がよく見えないなかを混雑したスロープを滑った。

ARABBA (1602m) は周回コースの玄関の一つとなっている町で、その上空をリフトで横断した。ARABBA から PORTA VESCOVA までゴンドラで一気に 876m 上った。ここから雄大なスロープをガイドの誘導で休憩をいれながら思い思いに滑る。PONT DE VAUZP (1851m) からは山裾に沿って伸びる長いリフトを乗り継いで、Rif. SAS BECE (2395m) に至る。ここから緩急があるポールで仕切られた広いゲレンデを滑る。コースを外れると新雪



写真 3-3 SAS BECE (2395m) からの滑走



写真 3-4 サッソルンゴの岩峰を背景に



写真 3-5 ロッジ PIZ. SETEUR にて昼食



写真 3-6 SELVA WOLKENSTEIN へ向かう



写真 3-7 SELVA WOLKENSTEIN の街

に突っ込むことになる。途中、阪田さんが足首を捻挫されたので、ペースを落とす。ゴンドラ 155 番でサツルンゴの岩峰の麓に 12 時過ぎに着いた。もう一方のグループはすでに昼食をとるロッジに着いたとの報告が入る。1 時間程遅れたようだ。サツルンゴの岩峰はガスで上半分は見えなかったが、ここで記念撮影をする。昼食を予約していたロッジ(PIZ.SETEUR 2064m)には 13 時過ぎに着いた。ロッジは満席状態で大変混雑していたため、2 階のベランダの席にまわされた。出発してから 4 時間が経過していた。ここで 1 時間休憩する。この日のツアーは昼食付きであった。ミラノ風カツレツを注文した。の阪田さんの足首捻挫による痛みにもかかわらず何事もなかったようにツアーを続けておられた。

昼食後、SELVA WOLKENSTEIN(1563m)の町に向けて、森林帯の中の緩斜面の雪道をゆったりと移動した。町に着くとスキーを脱いで道路を横断して、次のリフト 31 番に乗った。次のゴンドラ 30 番の乗り場まで滑る。温度が低くなったせいか雪の状態がよく快適な滑走であった。ゴンドラ 30 番と 40 番は途中に中間駅があり、連続しカーブしている。ここから 最終のゴンドラ 34 番の乗り場まで緩斜面を思い思いに滑る。途中で阿部さんの行方が分からなくなったが、ゴールのコルバラで先について待っていた。15 時 50 分全員無事セラロンダの周回コースを完走して、コルバラに到着した。

もう一方のグループには到着が遅れて迷惑をかけたが、16 時 20 分にコルバラを発って、往路を辿って 17 時 25 分にホテルに戻った。19 時半からの夕食で完走を祝って乾杯した。



写真 3-8 コルバラに向けて最後の滑走



写真 3-9 コルバラ到着 周回無事完了

◆ 2月17日(水) 雪、曇り(滑走エリア:プランデコロネス Plan De Corones)

朝起きるとホテルの前には雪が積もっていた。本日はチベットに行く予定であったが、降雪で峠が通行止めになったためにオーストリア国境の付近のプランデコロネに急遽変更された。阪田さんは足首捻挫のために不参加となったが、阿部さんと倉橋さんも一緒に休養されることになった。朝食は7時半からとり、8時40分に昨日と同様に二つのグループと一緒に大型バスで出発した。

プランデコロネのスキー場は、コルチナ・ダペッツォの町の北側のオーストリアの国境に位置している。途中の山道では除雪のため停車させられたが、10時過ぎに OLANG のキャビン乗り場(1344m)に到着した。樹林帯の山道に入って峠を越えると谷は広くなり視界が開けて、バスは鉄道線路が並行する道路を走った。プランデコロネスのスキー場は、その頂上から放射状にリフトやゴンドラ、比較的長い滑走コースが配置されているのが特徴である。滑走方向を間違えるととんでもないところ迷い込むことになる。まず、ゴンドラを乗り継いで頂上(2275m)に上がった。頂上の広場には、大きな釣鐘がありその周りにロッジやゴンドラの乗り場が配置されている。まず頂上から麓の RISCONE(950m)まで 4kmの森林帯のコース 4 を滑る。途中、スキー教室をしながら滑ったので、再び頂上に戻ると12時となった。

頂上のレストラン CIMA で昼食をとる。ラザニアとフルーツポンチを注文した。食後には、コース6番とコース 22 番を滑って、朝のスタート地点に戻った。雪が重く、22番は上級コースで傾斜もきつかった。ここで山下さんと齋藤さんは滑走を終了してレストランで休憩することになった。岸夫妻と背景は、ゴンドラの間差点まで上がって最後の滑走をすることにした。全員が滑走を終えたのは14時半であった。結局、午後は天候が悪く降雪のなかを滑った。



写真 4-1 頂上の状況 (CIMA の案内資料)



写真 4-2 頂上の釣鐘



写真 4-3 滑走前の集合写真 (頂上)

バスの出発まで1時間もあるので、レストランのバーで休んだ。15時半になるともう一つグループも戻ってきたので、全員合流して帰途に就いた。車のホテルに着いたのは16時半であった。

19時半に夕食のため全員集合したが、阪田さんの足首捻挫の具合は芳しくなく、残念ながら明日もツアーには参加できないようだ。



写真 4-4 コース 22 番にて深谷ガイドと

◆ 2月18日(木) 快晴(滑走エリア:ラガッツォイ⇒アルタパディア)

朝起きるとホテルの前に出て快晴を確認した。家屋や車の屋根に新雪が積もっているが、雪をまとったトファーナの岩稜と青空のコントラストが朝日をあびて眩しい。本日はガイドスキーの最終日で最高のコンディションで迎えられた。予定通り、ラガッツォイからアルタパディアへのツアーに出かける。阪田さんは残念ながら不参加となった。

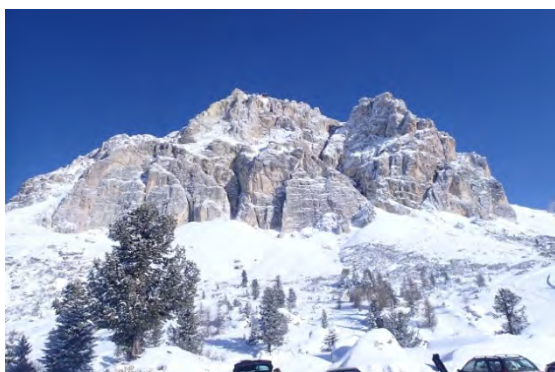


写真 5-1 峠からラガッツォイを見上げる

大型バスで二つのグループが8時35分に出発した。ツアー出発点となる峠(PASSO FALZAREGO 2150m)までの道は2月16日と同じである。見上げる高さの岩峰を背景に新雪を被った樹林の中を峠に向かう。峠の北側に聳えるラガッツォイ(LAGAZUOI 2778m)までの空中には高々とケーブルが敷設され、628mの高さを一気に登ることができる。ラガッツォイは小さな独立峰でその縁にへばりつくようにゴンドラ乗り場と展望台が建てられている。展望台からは360度の景色が展望できる。

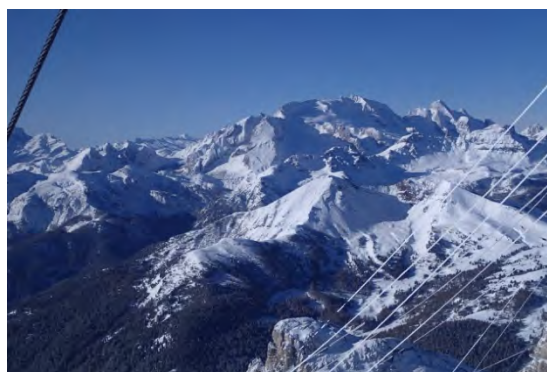


写真 5-2 ラガッツォイからの展望



写真 5-3 ラガッツォイの展望台にて

ここを起点に氷河の U 字谷が北に延びている。岩峰の囲まれたその中をどこまでも滑走することになる。

雪面は 10cm 程度の新雪で覆われていたが、無風でしかも快晴であり、素晴らしいコンディションに恵まれた。展望台で集合写真を撮って、9 時 54 分に滑走を開始した。スタート地点こそ急な斜面であったが、全体的には比較的なだらかな中級コースで景色を楽しみながら滑り続けた。少し急な斜面を大きく左側に回り



写真 5-4 ラガッツォイの小屋からの滑走斜面



写真 5-5 ロッジ スコトニイに向かう途中  
込んで下ると、ロッジ(スコトニイ 1985m)があった。このロッジまで滑ってゆくには手前の斜面で勢いをつける必要があった。ここでゆっくりコーヒータイムをとる。

このロッジの先には、左側岩壁に氷柱が発達し蒼く光っていた。次のロッジ(CAPANNA ALPINA 1726m)の手前で下り勾配は終わり、少し上り勾配となっている。自分の力で雪面を上るのはこのツアーでは初めての経験である。やっとの思いで上り切ってロッジに着くと、その



写真 5-6 ロッジ スコトニイにて

脇に駐車場があり数台の車が駐車し、雪に埋まった道路が先に伸びていた。町中に出てきたと感じた。道路の雪面を進むと 2 頭立ての馬ソリ(6 人乗り)が待っていた。ソリの後ろには長いロープをつけている。ここから先の平坦な道の移動には、この馬が引くソリを利用する。代金は 2.5 ユーロで、ソリに乗れない人ロープにつかまってスキーで滑ってゆく。阿部さん、山下さん、岸夫妻はソリにのり、その他はロープに掴まった。ソリでの移動時間は 10 分程度であった。馬ソリは道路に沿って林の中を進み ARMENTAROLA (1615m) の町で下りた。



写真 5-7 蒼氷の氷柱



写真 5-8 スキーヤーを牽引する馬ソリ

ここからアルタパディアのスキーエリアに入った。次に 12 番の J バーリフトを股に挟んで 80m 程上がって、滑走コース 11 を滑って CASSIANO(1537m) に至る。ここからゴンドラ 11 番に乗って PIZ SOREGA(2003m) まで上る。ここで昼食に時間となったので、窪地に設けられたロッジ(CIAMPAL 1900m) まで滑る。ここで昼食をとったが、室内は満員だったので屋外のカフェテラスに座った。ホットドッグ 11 ユーロ、コーヒーが 1.5 ユーロ、チップを含めて 15 ユーロを支払った。

昼食後、ロッジ前の乗り場からリフト 8 番に乗り、BIOCH (2079m) の頂上の広場まで上がって記念撮影をした。その後滑走を始めようとした時に齋藤さんがいないに気づく。阿部さんが携帯電話すると、迷って反対側の CORVARA に向かうコース 7 番を滑ってしまったことが分かった。全員で齋藤さんを追ってリフト乗り場の LA BAITA で合流できた。携帯電話に感謝である。ここから、リフト 16 番に乗ってスキーエリアの最高地点の PRALONGIA (2157m) まで上がった。ここからは反対斜面の滑走コース 9A 番と 11 番を滑って、昼食前に乗った



写真 5-11 BIOCH(2079m)にて



写真 5-9 J バーリフトの乗り場にて



写真 5-10 ロッジ CIAMPAL にて昼食



写真 5-12 最終地点 La VILLA にて

ゴンドラ 11 番の乗り場 CASSIANO(1537m)まで下りた。再び、PIZ SOREGA(2003m)まで上がって、バスが待つ最終地点の La VILLA(1433m)に向けて滑った。滑走コース 23 番と 24 番である。最後に町へ連絡する短いリフト 57 に乗って 15 時にバス乗り場に着いた。La VILLA にはワールドカップ大回転コース 17 番が有名であると紹介されたが、もう一つのグループはそこを滑走したようだ。

15 時半に全員が集合できたので、バスで帰路に就いた。途中、本日の出発点のファルツァレーゴ峠(PASSO FALZAREGO 2150m)を經由して、16 時半にホテルに帰った。幸いにも終日快晴のもと最後のスキーツアーを無事に終えた。

#### ◆ 2月19日(金) 晴(滑走エリア:ファローリア&クリスタッロ⇒トファーナ) 青景の記録

本日は、ガイドなしのフリータイムスキーである。阪田さん、阿部さん、倉橋さんはスキー場には行かず街歩きをする。山下さん、齋藤さんと岸夫妻の 4 人はトファーナへ行き、青景は単独で最初の二日間で滑ったファローリア&クリスタッロからトファーナを回るコースに出かけた。

以下は青景の報告である。

ホテルを 8 時半に循環バスで出発。午前中にまず初日のファローリア(FALORIA)コースを順番にトレースすることにする。ゴンドラ 51 番でファローリアのスキーエリアに上がると、まずリフト 54 番でその最高点(TONDI 2362m)まで上がり、コース 63 番と 60 番を連続して滑った。そこ

からクリスタッロのエリアに移動するために、下りのリフト 55 番で道路を横断する RIOGERE(1680m)まで下る。スキーを脱いで車道を横断して、リフト 57 番に乗った。535m 上るとロッジ(RIF. SON FORCA 2215m)がある。ツアー初日に昼食をとったレストランであるが、今日はほとんどお客がいない。ここに来たのはトンバコース 69 番を滑るためであるが、その前に足慣らしにコース 71 番を滑る。初日に滑ったコースである。リフト 59 番で上り返して、トンバコースのリフト乗り場にゆく。朝が早いいためか乗る人はいない。上部はクリスタッロの岩峰に食い込んだ急なルンゼとなっている。取りあえずリフト 58 番に乗ると、滑走する二人連れが見えたので安心する。ルンゼの幅が狭くなり傾斜が急になる所に中継点があり人が立っていた。そこにまで行くと、ここから上には



写真 6-1 トンバコースのリフト 58 番



写真 6-2 リフト 58 番の中継点で降ろされた

行けないので下りるように指示された。上部は圧雪がしてなかった。スリップすると大変なので、慎重に1回1回ターンを繰り返して下降し、コース71番に入ってリフト乗り場まで滑った。再びリフト59番で上り返した。ここからルート73番を道路横断点RIOGERE(1680m)まで滑った。ここから、ファローリアのエリアに戻る。リフト55番と56番を乗り継いで上ると、リフト56番の下にオフピステのコブ斜面があったのでトライしてみる。溝が深く楽しい滑走ではなかった。再びリフト56番で上り返して、朝一番で乗ったリフト54番の乗り場に戻った。ここからリフト54番トップに行き、コース61番を滑ってファローリアでのスキーを終了した。時間は11時過ぎであった。



写真 6-3 リフト 30 番で TOP まで上がる

トファーナのスキー場へは休憩を取らずに移動した。コルチナのゴンドラ25番に乗ったのは11時40頃であった。Col Druscie(1778m)に到着すると、すぐにゴンドラ26番に乗り継いで Ra Valles(2470m)のスキーエリアに上がった。このスキーエリアでは、まずリフト30番に乗って最上部のBUS De LOFANAまで上った。最上部はガスのなかにあって視界は利かなかった。慎重にコース46番を滑る。次に、リフト29番で

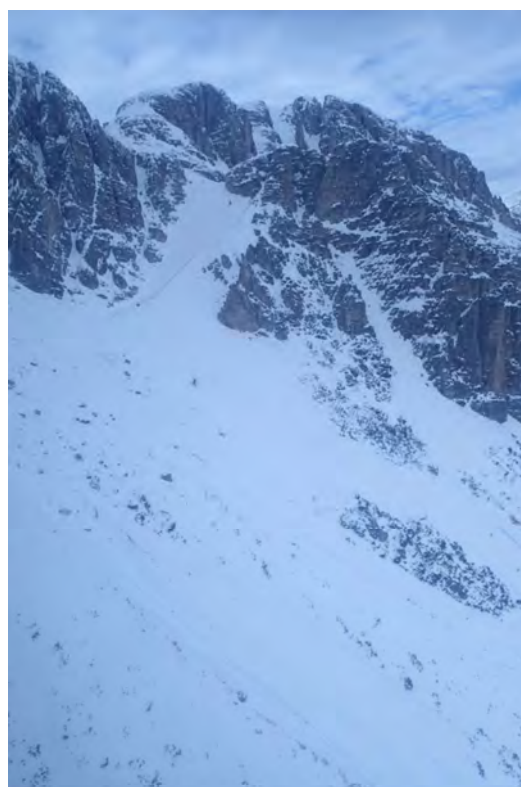


写真 6-4 コース 51 番

ACCIATORI(2612m)まで上がりコース47番を滑り、さらにコース49番をPIAN RA VALLES(2216m)まで連続して滑る。次に、リフト28番で元の位置に戻る。コース49番から分岐して途中からコース51番に入って、急な上級コースを下る。コースは防護ネットで保護されているが、スリップしないように慎重に回転を繰り返す。コース51番から連続して滑走コース43番を滑り、リフト24番でCol Druscie(1778m)に戻った。ここで、猪谷千春選手のオリンピックの回転コース41番を滑った。その後再びCol Druscie(1778m)に戻った。次に、コース42番を滑って、リフト21番とリフト22番を乗り継いで、二つの岩峰の間を滑るコース35番とそれを巻くルート31番を滑った。その後、コース43番とリフト24番を経由してCol Druscie(1778m)に戻り、ゴンドラ25番でコルチナ・ダンペッツォの街に下山した。14時28分であった。ホテル帰ってから土産物を買いに街にでて、夕食前には帰国の荷造りをした。

◇以下は、トファーナの報告(岸さんの報告)である。

ホテルのすぐ目の前のロープウェイ乗り場からロープウェイに乗って Col Druscie(1778m)まで行き、そこで山下さんと別れる。齋藤さんと岸夫妻はまずコース 40 番を滑った。まだ朝早くてスロープはきれいに圧雪されたままで、人も少なく気持ちよく滑った。リフトでもう一度 Col Druscie(1778m)まで上がって、次にコース 42 番を滑った。またリフトで上がったところで休憩することにして山小屋のレストランに入りコーヒーを飲んだ。コース表をみると下まで降りるコース 43 番があるので、休憩後にはそれを探しながら滑ることにした。コース 42 番をしばらく下った所で月実さんが転倒して防護ネットに突っ込んで身動きが取れなくなったが、幸いにも後ろいた齋藤さんに救出された。滑走コース 43 番とリフト 24 を経由して、Col Druscie(1778m)まで戻ったが、2 日目に行ったさらにうえの Ra Valles(2470m)のスキーエリアへ行く元気が残っていなかったなので、ここでやめて下山のロープウェイに乗った。ホテルに帰ってから昼食のカップラーメンを食べた。ラ王の醤油味と豚骨味。久しぶりの日本食は美味しかった。その後、土産物を買いに町に出た。

◆ 2月20日(土) 晴 帰国(ベニス・マルコポーロ空港⇒フランクフルト空港)

朝 5 時、ホテル前に集合して荷物をバスに乗せる。まだ暗い 5 時 25 分に出発し、もう一つのグループが泊まっているホテルアンコラに寄ってからベネチアに向かった。7 時半、空が明るくなった頃にベニス・マルコポーロ空港の駐車場に着いた。駐車場の脇にあるカートにスーツケースとスキーケースを載せて、空港まで 100m程歩いた。まずルフトハンザ航空のカウンターでスイス航空に乗るもう一つのグループが搭乗手続きを始めた。それに引き続いて午後の便の我々も手続きをしようとしたが、出発の 3 時間前でないと受け付けられないと言って搭乗手続きを拒否されてしまった。受付開始まで荷物を見守りながら待機した。我々のルフトハンザドイツ航空 LH327 便は 13 時 25 分に予定通り出発し、フランクフルト空港に 14 時 50 分に到着した。フランクフルト空港で出国審査を受けて搭乗を待った。羽田空港行きのルフトハンザドイツ航空 LH716 便は 17 時 55 分(日本時間 21 日 1 時 55 分)に予定通り出発した。

◆ 2月21日(日) 晴 帰国(フランクフルト空港⇒羽田空港)

フランクフルト空港を予定通り日本時間 1:55 に出発し、11 時間以上の長時間の飛行で 13 時 25 分に予定通り羽田空港に到着した。荷物が出てくるのを長々と待った。山下さんはスキーがないので大型荷物を待つ必要がないので、皆のスーツケースが出てきたところで今回のスキー合宿は解散とした。スキーケースを受けとって、入国審査と税関審査を受けて外に出て、荷物を宅急便で送る手配をして三々五々家路についた。

## ■おわりに

2016年のKC スキー合宿の一環で実施した念願の「ドロミテ スーパースキー合宿」を無事終えることができた。リーダーの倉橋さん、ツアー会社との折衝を担当し計画を立案していただいた阿部さんには大変お世話になりました。また、合宿に参加された皆さんには不慣れな海外でのスキーにも関わらず、気兼ねない充実した合宿を楽しむことができましたことに感謝しております。阪田さんは3日目のセラロンダの周回ツアーで足首を捻挫され、その後は休養を余儀無くされたのは残念でしたが、KCでの合宿の成果を発揮し、年齢にも負けず環境にも順応して無事帰国できたことは特記すべきことと思います。ますますKC スキー合宿が盛んになりますことを願っています。

因みに、スキーパスの利用で記録保存された私の6日間の滑走実績は以下の通りでした。利用したリフトとゴンドラのは数は70施設、それによる高低差の累積は24,149m、想定される滑走スロープの長さの累積は109.4kmとなっていました。

記 青景平昌 (HUAC143)